

病理診断科

○ 病理診断科の概要

1. 病理診断科の特色

埼玉医科大学国際医療センター・病理診断科は、病理診断を主体として行う臨床部門の1つである。今日の集学的治療に必要な情報を提供するために、臨床医と密な連携のもと病理診断を行っている。主な業務は、病理組織診断、術中迅速診断、細胞診、病理解剖で、直接患者と接する機会は少ない業務だが、いずれもなくてはならない医療業務であり、スタッフの病理医が、細胞検査士を含む専門の臨床検査技師とともにこれらの業務にあたっている。さらに、埼玉医科大学病院・中央病理診断部とも密に相互連携し共同して病理診断を行っている。病理診断は、広い分野・臓器の疾患に渡るが、本科には多分野の専門家が所属し、日本や世界の病理診断学をリードしている。診断や治療選択に直結する分子病理学的な検索を含めた最新の解析も日常診断に用いながら、各分野の専門家が最新の病理テクノロジーを駆使する、新世代型の病理診断科である。

2. 診療実績（平成29年1月～12月）

国際医療センターでの病理診断実績は以下のとおりである。

① 病理組織診断	10,042 件
② 術中迅速診断	1,276 件
③ 細胞診（含迅速）	8,598 件
④ 病理解剖	24 体
⑤ IHC 組織検査	4,017 件
⑥ FISH 組織検査	44 件
⑦ 染色体検査	294 件

病理解剖の受付（日直制）

月曜日～金曜日 9:00-15:00

土曜・日曜・祝祭日 9:00-12:00

3. 診療・教育スタッフ（指導スタッフは全て、病理専門医、病理専門医研修指導医資格を有している）

<国際医療センター>

安田 政実（教授）：婦人科病理、細胞診

長谷部孝裕（教授）：乳腺病理

新井 栄一（教授）：皮膚病理

川崎 朋範（教授）：

藤野 節（教授）：骨・軟部病理、消化器病理

永田 耕治（准教授）：消化器病理、肝胆膵病理

<埼玉医科大学病理学教室>

佐々木 惇（教授）：神経病理

山田 健人（教授）：血液病理

石澤 圭介（准教授）：神経病理

市村 隆也（講師）：婦人科病理、分子病理

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：安田 政実（診療部長）

臨床研修指導医：安田 政実、長谷部孝裕、藤野 節、永田 耕治

上級医（指導者）：新井 栄一

5. 臨床研修プログラムの特色

病理診断科で研修される初期研修医には、将来、臨床医を目指しているものの、基礎的知識として病理学を経験したい先生と、将来、病理専門医を目指す先生がいる。本病理診断科では、それぞれの先生方が目指す目標にあわせた研修プログラムを提供している。

1) 初期研修医の研修内容

病理診断科における主な病理診断業務は組織診断（術中迅速診断を含む）・細胞診・病理解剖で、必要に応じて、免疫組織化学的、分子病理学的、電子顕微鏡的解析を行うが、これらの業務をスタッフの指導の下、実地に行ってもらおう。その結果、各科にわたる種々の疾患を全般的に広く学び、幅広いものの見方・考え方を身につけることができる。

具体的には、

- ① 手術検体の取り扱い、適切な肉眼観察、切り出し
- ② 病理組織診断へのアプローチ、病理解剖に関わる基礎的知識や手法の習得
- ③ 代表的疾患の肉眼的・組織診断や、鑑別に挙がる疾患の推定
- ④ 剖検・CPC による、解剖学の復習や系統的な疾患の捉え方の習得
- ⑤ 臨床各科とのカンファレンスに参加による、臨床所見と病理所見の対比
- ⑥ 学会での発表や学術誌への投稿

ができるようになる。

病理解剖があった場合には、研修医の先生は可能な限り参加してもらい、剖検を通して個々の臓器所見から全身的な病態を、あるいは全身状態から各論的事項を考察していく、他科では経験のできない修練が経験できる。ご遺体に対して敬虔な気持ちを抱きながら剖検に携わることで、医療従事者としての基本的な心構えを再確認する機会でもある。



切り出し・診断のレクチャー、コンセンサスミーティング

6. 経験目標・到達目標

- ・ 定型的な症例の手術標本の肉眼病変を的確に指摘でき、かつ適切な切り出しが行える。
- ・ 定型的な症例の病理組織標本の組織学的病変を的確に指摘でき、診断名を付すことができる。
- ・ 難解例に対して、適切なコンサルテーションを行うことができる。
- ・ 凍結切片作製、染色ステップを理解できる。
- ・ 一定の時間内に迅速病理診断を正しく行い、手術室に報告することができる。
- ・ 稀有でない症例における病理解剖の手技を説明できる。
- ・ 免疫組織化学染色に関して、パラフィン切片を対象とした場合の診断に有用な代表的抗体について説明できる。
- ・ 臨床各科との病理カンファレンスに参加し、適切なプレゼンテーション・ディスカッションができる。

7. 週間カンファレンススケジュール

月曜日～金曜日	16:00-16:30	病理コンセンサスミーティング
月曜日	17:00-18:00	婦人科・病理カンファレンス (毎週)
火曜日	18:00-19:00	造血器腫瘍・病理カンファレンス (月例)
	18:00-19:00	泌尿器・病理カンファレンス (月例)
	19:00-20:00	脳腫瘍・病理カンファレンス (月例)
	18:00-19:00	循環器・病理カンファレンス (月例)
水曜日	17:00-18:00	皮膚・病理カンファレンス (月例)
	18:00-19:00	乳腺・病理カンファレンス (隔週)
	18:00-19:00	骨軟部腫瘍・病理カンファレンス (月例)
木曜日	9:00- 9:30	病理診断科連絡会
	15:30-17:00	剖検マクロ・ミクロカンファレンス (CPC)
	18:00-19:00	肝胆膵内科・外科・病理カンファレンス (月例)
金曜日	19:00-20:00	頭頸部腫瘍・病理カンファレンス (月例)
土曜日	8:30- 19:30	呼吸器・病理カンファレンス (月例)

その他、臨床各科とのカンファレンスが随時行われる。

8. 当科の一押し

病理診断科の特徴はホームページ(<http://www.pathology-simc.jp>)を参照していただきたい。

スタッフには消化管、肝胆膵、甲状腺、肺、婦人科、皮膚、血液、神経、細胞診などと非常に広範な各臓器専門の病理医が揃っていて、本邦において、これほど広範な専門領域の病理医を揃えている施設は稀で、各専門領域の臨床医とともに質の高い診断とカンファレンスを実施している。

病理診断科では、病理診断の向上および基礎病学的な病態解明を中心とした研究活動にもそれぞれのスタッフが積極的に取り組んでいる。また、我々の知識を日本や世界に発信するために様々な情報を論文や著書として出している。

以上のように病理診断科では、豊富なスタッフと充実した体制のもとで診断・研究・教育に非常に高いレベルで取り組んでおり、初期研修医の先生方がこのような環境のもとで研修することで、各病理診断業務に関する実力を確実に身につけることができるとともに、レベルの高い、人間性の優れた医師として育つことができるものと確信している。

9. その他

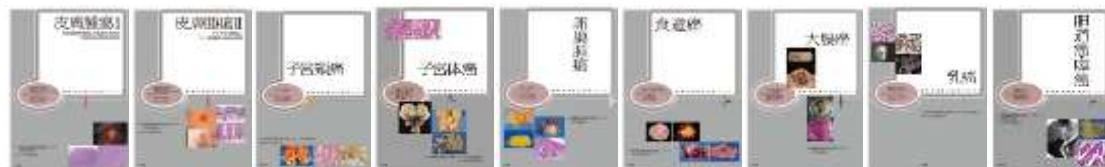
病理診断科のスタッフが関与した規約



病理診断科から出版している主な著書



病理診断科のスタッフが関与したアトラス



10. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター
病理診断科 安田 政実 (診療部長、教授)
TEL : 042-984-4431
E-mail : m_yasuda@saitama-med.ac.jp
HP : <http://www.pathology-simc.jp>